

博報堂教育財団 第14回「日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ) 在住国名	金 晞泳 (キムユウヨン) 韓国
所属・役職	同徳女子大学・准教授
招聘回(招聘研究期間)	第14回 (2020年03月01日～2020年08月31日)
受入機関	東京外国語大学
招聘研究テーマ	現代日本語と韓国語の「若者言葉」と「打ち言葉」に関する比較対照研究-「媒体の変化・技術依存」の造語法を中心に -
研究目的	若者言葉と打ち言葉との関係性を確認し、打ち言葉の定義と分類を再検討する
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>本研究では、主に二点に焦点を合わせて研究を進めた。まず、日本の若者たちの流行語である若者言葉の造語法の特徴を韓国の若者言葉(급식체 <small>ゲッシクチェ</small>(給食体)とも)と比較・対照しながら詳しく分類し、その発生の原因及び傾向に関して考察を行った。具体的には現代日本の若者言葉をその生成方法によって細かく分類して、それぞれの造語法の特徴を明らかにするために、口語的な性格が強くて若者言葉の出現頻度が高いと思われるテキストを調査対象にして、調査を行った(e.g. Twitter, 「Yahoo!知恵袋」など)。</p> <p>続いて二点目は、現代日本の「若者言葉」の定義と分類に関する先行研究、さらに「若者言葉」の中の「打ち言葉」における先行研究を踏まえて、「若者言葉」の中でも「打ち言葉」として分類できる「媒体の変化・技術依存」の造語法による「若者言葉」を幅広く調査・分類・考察を行った。そうすることによって、「若者言葉」でありながら「打ち言葉」である語の造語法の特徴と発生原因を明らかにした。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>本研究では先行研究を踏まえて「若者言葉は10代後半から30代前後の若者で構成された集団によって流行り出した言葉」と定義し、若者言葉はその内容となる「コンテキスト」と形式である「語構成」が「媒体」による影響を受けながら「不透明性」を高めることで造語される点を明らかにした。また「書き言葉」と「話し言葉」の特徴を持ち合わせている「打ち言葉」という概念を導入して媒体と技術依存的な若者言葉の特徴を明らかにした。最後に、音節文字である日本語と単音文字である韓国語の表記面における差によって、両言語の若者言葉における差が見られる点も明らかにしたが、それを踏まえて両言語における若者言葉の造語法の特徴を分類してまとめた。</p> <p>続いて、「若者言葉」は若者の集団内或いは世代内で流行りだした言葉であって、よそ者にとってはその意味がまったく分からない、「不透明性」を持っている。一方、「打ち言葉」は文字チャットなどCMCにおける言語は「入力」された文字を媒介とするため「書き言葉」のような要素を持ちながら、SNSなどの「ネット媒体」でまるで対面して直接会話するようなスピード感のある会話の中で使われるため「話し言葉」の要素も持ち合わせている。しかし「打ち言葉」は、「書き言葉」と「話し言葉」の境界線を曖昧にさせる一方、声を使わないためにパラ言語による情報あるいは非言語コミュニケーション情報が得られない。そのような弱点を補うために、「打ち言葉」は「ネット媒体」で、創造的な文字の組み合わせや使い方、絵文字やスタンプなど様々な記号の使用など、規範的な語構成・正書法とは異なる語・テキストになったのである。そのような「入力」と「ネット媒体」による新しい語構成の原理は結果的に「打ち言葉」における意味の「不透明性」をあげ、「若者言葉」になったのである。</p> <p>ところが、このような「若者言葉」において「打ち言葉」がその領域を拡大していく現象は、日本語のみならず韓国語でも英語でも行われる現象であって、他の言語との比較・対照研究を行うことによってさらに日本語の「若者言葉」と「打ち言葉」の特徴や相互関係などより明確にすることができると思う。また、「打ち言葉」と「若者言葉」に関する更なる資料調査と考察を行うなど、「ネット媒体」の大量のデータ取りに基盤をおいた定量的な研究も必要とされると思われるが、それは今後の課題としたい。</p>	

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

- ・「現代日本語の「打ち言葉」の定義と特徴-「Twitter」のクローリングによる「打ち言葉」の分析を通じて-」(投稿予定), 掲載誌未定, 発行者未定, 掲載月未定

- 内容の概略

本研究ではTwitterの打ち言葉関連データをクローリングし, 打ち言葉における通時的な考察を行って打ち言葉の定義を明らかにした。まず打ち言葉はネットワーク上のデジタル媒体で現れるデジタル文字入力によるチャットやテキストの言葉であると定義し, さらに打ち言葉をチャットの打ち言葉と技術依存の打ち言葉に分類した。詳しくはネットワークを通じた文字会話における言葉を打ち言葉だとする定義は有効で, そのような言葉をチャットの打ち言葉とした。また, 表記における多層構造(漢字, 平仮名, 片仮名, ローマ字など)と, 独自のデジタル文字入力方法(PCとスマートフォンのキーボード, スマートフォンのテンキーなど)による言葉を技術依存の打ち言葉とした。

- ・「テキストマイニングを用いた日本のメディアの韓国ニュースにおける感情の推移に対する分析-Pythonを用いた「単語感情極性対応表」による分析を活用して-」(投稿予定), 掲載誌未定, 発行者未定, 掲載月未定

- 内容の概略

本研究では日本語学の分野でもテキストマイニングの手法の導入が必要である点, またその実際の手法自体に対する検証も必要であるという認識のもとで, 独自のテキストデータ(コーパス)を構築し, テキストマイニングの分析を行った。その結果「単語感情極性対応表」を活用したテキストの感情極性の分析はテキストの感情の分析に効果的である点を確認できた。また, この10年間における日本のメディアの韓国に対する感情は持続的に悪化している点, 日韓関係の出来事によって韓国に対する日本のメディアのニュース記事の「感情極性」が積極的に反映されている点も確認できた。

○その他

- ・SNSやウェブにおける資料収集ツールの開発とコーパスの構築

① Twitterのクローリングプログラムの開発と小規模のコーパスの構築

http://www.japanese.or.kr/japaneseutil/AJ_Twitter_Crawling/AJ_Twitter_Crawling.aspx

http://www.japanese.or.kr/japaneseutil/AJ_Twitter_Crawling/AJ_Twitter_Crawling_Data-TypedLanguage.aspx

(AJ_Twitter_Crawling_data_打ち言葉_2006-03-22_to_2007-04-30.csv)

② ウェブのクローリングとニュース・コーパス(日本のメディアによる韓国関連記事)の構築

http://www.japanese.or.kr/JapaneseStudy_corpus.aspx (AJ_Corpus_Ver.1.202007.zip)

4. 今後の活動予定

「打ち言葉」によるデジタル世界の言葉は今まで人類が蓄積してきた「書き言葉」によるデータ量と比べてあまりにも膨大でその拡大速度もまた異常なほど速い。「IBM Marketing Cloud Study」によると現存するインターネットのデータの90%が2016年以後に生成されたものであるにも関わらず, 2018年の全世界のデジタルデータの量は33ゼタバイト(ZB)で, 2025年になると175ZBまで拡大すると予測されている(IDGによる)。全てがテキスト・データではないだろうけど, このようなデータの量を64GBのスマートフォンに例えたとおおよそ2兆6千億台も必要とされるという量であって, これからの「打ち言葉」の影響力は決して看過できないものであろう。

従って, 「打ち言葉」と「若者言葉」に関する更なる資料調査と考察のために, 引き続き「ネット媒体」の大量のデータ収集に基盤をおいた定量的な研究も必要とされると思われるが, それは今後の課題としたい。